

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図り、生徒が「藤高（ふじたか）」生のプライドを持ち行動する学校

- 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、生徒一人一人の希望を叶える進路を実現する
- 2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う
- 3 「地域連携」を核に、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進め、地域に根ざした「チーム藤高（ふじたか）」を充実させる
- 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする

2 中期的目標

1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現

(1) 希望の進路の実現に向け、教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む教育活動を推進する。

ア 「普通科」における教科横断の授業研究を進めるとともに、生徒の自学自習の促進を図る。

イ 授業における ICT の活用を進め、視覚化、情報活用による授業効果を定着させる。

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 28 年度 72.4%）を、平成 31 年度には、80%にする。

(2) 3年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、進路実績を向上させる。

ア 1、2年次から進路に合わせた進学講習を実施することで、早期の目標設定につなげる。

イ 進路決定まで、学年進行に合わせて、基礎学力調査における判定を、各々 1 ランク向上させる。

ウ 大学等との連携や補習、自習室活用の拡充により、難関大学の進学実績を向上させる。

※ 重点目標として、1年次 9月実施の基礎学力調査・学習到達度調査 Bゾーン以上（平成 28 年度 35.3%）を、平成 31 年度には、40%にする。

※ 国立・難関私立大学の合格者数を、平成 28 年度 16 人を、平成 31 年度には 30 人に、それに準じる有名私立大学合格者数、平成 28 年度 21 人を平成 31 年度には 60 人に近づける。

2 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う

(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む。

ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成する。

イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む。

ウ 「部活動」の活性化により、学校生活をより充実したものにし、その活動を通して、公共心を育む。

※ 生徒向け学校教育自己診断における生徒会行事、部活動に対する生徒満足度、平成 28 年度における満足度「文化祭・体育祭」87.3%、「生徒会活動」83.9%、「部活動」83.1%を、平成 31 年度には、90%に近づける。

3 「地域連携」を核に、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進め、地域に根ざした「チーム藤高（ふじたか）」を充実させる

(1) 支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育システムについて理解を深める。

ア 藤井寺支援学校との交流活動を拡充し、生徒及び教職員がインクルーシブ教育システムについて理解し、活動に生かす。

(2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充する。「地域に根ざした、進学したい学校 No. 1」をより確かなものとする。

ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高（ふじたか）」を発展させる。

イ PTA、同窓会の協力の下、海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ、交流も充実させる。

(3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する。

ア HP のさらなる改善を図り、情報発信を強化する。

イ 「体験入学」、「学校説明会」について、さらに ICT を活用し、視覚的に「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく PR する。

4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」をより確かなものとする

(1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る。

ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、一人一人の生徒支援の充実を図る。

イ 98%の生徒が利用している自転車のマナー向上と交通安全指導の徹底を図る。

(2) 「入学してよかったと言える学校」を将来に渡って継続していくために、本校の展望を検討する。

ア 「藤高向上促進委員会」を設置し、将来に向けた展望を検討していく。

(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る。

ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現	<p>(1) 希望の進路の実現に向けた、教員の指導力の向上、生徒が主体的に授業に取り組む工夫</p> <p>ア 「主体的に学ぶ力」の育成</p> <p>イ 授業における ICT 活用の促進</p> <p>(2)</p> <p>3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実</p> <p>ア 2年次からの看護・医療系進学講習の充実</p> <p>イ 基礎学力の向上</p> <p>ウ 自習室活用の拡充</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「主体的に学ぶ力」の育成のために、事前学習となる「予習」につながる「宿題」を増やすとともに、「授業における振り返り」を徹底し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>イ 全学年のHR教室に設置したプロジェクトを効果的に活用した授業を展開していく。</p> <p>(2)</p> <p>ア 増加する看護・医療系進学希望者に対応するため、2年次から看護・医療系講習を実施し、早い段階から意識の向上と学習内容の定着を図る。</p> <p>イ 1年次から進路に向けた意識づけを行うことで、基本となる1年次の基礎学力の向上を図る。</p> <p>ウ 日々の自習室の活用を促進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成28年度72.4%)を、75%にする。</p> <p>イ 同自己診断による「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」(平成28年度81.2%)を、85%にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる」(平成28年度78.1%)を、80%以上にする。</p> <p>イ 1年次の基礎学力調査学習到達度Bゾーン以上の生徒の割合を、(平成28年度35.6%)を、40%にする。</p> <p>ウ 自習室の活用を促進することで、国公立・難関私立大学の合格者数を、平成28年度16人を、平成29年度には20人に、それに準じる有名私立大学合格者数、平成28年度21人を、平成29年度には30人に近づける。</p>	
2 学校行事や部活動を通して、公共心を養う	<p>(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力の育成</p> <p>ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織を企画・運営する生徒の力の育成、及び生徒リーダーの養成</p> <p>イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」の育成</p> <p>ウ 「部活動」の活性化と、公共心の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア 体育的行事において、生徒会部と3年学年団が連携し、生徒のリーダー集団を育成する。そのリーダー集団に、企画から1、2年を巻き込んだ組織運営に取り組ませる。</p> <p>イ 文化的行事において、生徒会を中心にクラス単位での企画・運営の中で、クラスの協力体制や責任感の大切さを理解させる。</p> <p>ウ 新入生に向けて、入部の促進を図り、「部活動」の活性化につなげる。また、各部の活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア イ 生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」(平成28年度87.3%)を、90%にする。</p> <p>また、同自己診断による「新入生歓迎会や学校説明会、各行事において生徒会はよく活動している」(平成28年度83.9%)を、85%にする。</p> <p>ウ 同自己診断による「本校は部活動が盛んである」(平成28年度83.1%)を、85%にする。</p>	
3 「地域連携」を核に、支援学校との交流、海外の	<p>(1) 支援学校との連携を通して、インクルーシブ教育システムの理解と実践</p> <p>ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育システムの構築の理解と実践</p> <p>(2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動の充実</p> <p>「地域に根ざした、進学したい学校 No.1」</p>	<p>(1)</p> <p>ア 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を充実させ、その広報活動を行う。同時に、インクルーシブ教育システムの構築について理解を深め、実践に生かす。また、年間を通じて「人権教育」を推進し、理解を深める。</p> <p>(2)</p> <p>ア 地域活動(新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動)の拡充を図る。特に、藤井寺市立北小学校への「放課</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」(平成28年度82.2%)を、85%にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断による「PTAや地域、近隣の学校(支援学校や北小)との交流をしている」(平成28年度78.8%)を、80%にする。</p>	

<p>学校や外部機関との連携も進め、地域に根ざした「チーム藤高（ふじたか）」を充実させる</p>	<p>ア 地域活動の拡充、地域と密着した「チーム藤高（ふじたか）」の発展 イ 海外研修の継続・充実</p> <p>(3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動の充実 ア HP による情報発信の充実 イ 「体験入学」、「学校説明会」の充実</p>	<p>後学習支援」と「授業研究」の連携を通じて、児童・生徒、教員間の交流を行う。</p> <p>イ ニュージーランドへの海外研修の継続と内容の充実を図るとともに、参加生徒による周りへの啓発活動を進める。</p> <p>(3) ア HP の改善を進める。「求められる情報」のタイムリーな更新を続けていく。 イ 「体験入学」、「学校説明会」について、さらに ICT を活用し、「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝えていく。</p>	<p>イ 同自己診断による「本校は国際交流活動に力を入れている」（平成 28 年度 78.5%）を、80%にする。 保護者向け学校教育同自己診断による「学校は国際交流活動に力を入れている。」（平成 28 年度 80.7%）を、85%に近づける。</p> <p>(3) ア イ 保護者向け学校教育同自己診断による「学校の教育方針や教育情報はわかりやすく伝わっている」（平成 28 年 67.2%）を、70%にする。「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある。」（平成 28 年 66.5%）を、70%にする。</p>	
<p>4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」を、より確かなものとする</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実 ア 一人一人の生徒支援の充実 イ 自転車マナーの向上と交通安全指導の徹底</p> <p>(2) 「入学してよかったと言える学校」の促進 ア 「藤高」の将来に向けた展望の検討</p>	<p>(1) ア 本校の教育目標である「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、「教育相談」体制を強化し、学年と部活動の連携、保護者との連携を深め、生徒支援体制の充実を図る。 イ 生徒の通学手段の 98%が自転車利用であり、交通安全指導の徹底を図る。</p> <p>(2) ア 「入学してよかったと言える学校」を将来も継続していくために、「将来構想委員会」を「藤高向上促進委員会」に改編し、将来の展望を検討するとともに、現状の改善を図る。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「悩みを相談できる先生がいる」（平成 28 年 49.8%）を、60%に近づける。 保護者向け学校教育自己診断による「子どもが悩みを相談できる先生がいる」（平成 28 年 53.5%）を、60%に近づける。 イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校での生活について、先生の指導は適切である」（平成 28 年 72.9%）を、75%にする。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい。」（平成 28 年 75.5%）を、80%に近づける。</p>	